

# スクールカウンセラーは教員のメンタルヘルスにどのように関与しているのか

—スクールカウンセラーに対するインタビューの SCAT による分析—

○小川倫弘・安藤美華代

(岡山大学)

## 問題と目的

メンタルヘルス不調により休職や退職となる教員の多さが問題になっている。令和3年度公立学校教職員の精神疾患による病気休職は5,897人と過去最多であった(文部科学省, 2022)。学校には心理職であるスクールカウンセラー(以下SC)が配置されているが、ほとんどの自治体では教員のメンタルヘルスのケアはSCの職務内容として募集要項には記載されていない。教員のメンタルヘルスは、児童生徒に影響する(堀川・野中・嶋田, 2021)という報告もあり、効果的な教育活動を行うためにも教員のメンタルヘルスケアは重要である。中島(2003)は、メンタルヘルス問題をとらえるためには「人間として健康か病気か」「機能として適応しているのか不適応なのか」の両面をとらえることが肝要と述べており、学校の中でこの両面をとらえることのできるスクールカウンセラーが教員のメンタルヘルスにどのように関与しているのかを探索的に調査する。

## 方法

研修会で協力を依頼し同意を得た60代のスクールカウンセラー1名に対しオンラインにてインタビューを実施した。分析は、録音した音声データを個人名や学校名、地名などの情報を匿名化し個人が特定化されないようにして、テキスト化し、SCAT(大谷, 2008, 2011, 2019)を用いて分析した。

実施に当たっては、所属機関の倫理審査委員会の審査承認(承認番号: 社\_2021\_11)を得、研究協力者に口頭・書面にて説明の上、同意書への署名をもって同意を確認した。

## 結果

SCATによる分析の結果以下の理論記述を得た。([ ]の語は、「テーマ・構成概念」を示す)

- ・スクールカウンセラーは、[教員のメンタルヘルスを意識したSC活動の実践]をしている。
- ・[具体的な活動]としては、[個人面談のニーズ]もあるが、[スクールカウンセリング活動]が[教員のメンタルヘルスケアへの寄与]となる活動である。

- ・[スクールカウンセリングによる教員のメンタルヘルスケア]は、[学校文化の外から来た専門家としての関わり]でありながらも[教員の立場や教育方法の尊重]をしながら進められる。
- ・[面談依頼]は[様々な依頼者]がいるが[集約する担当者の存在]があり、[教員との個人面談という業務]として位置づけられている。
- ・[個人的な相談]になることもあり、結果として[外部機関の紹介]をすることもある。
- ・[職員室での日常会話]の[声掛けの内容]は[専門性の尊重]や[一人職への配慮]など[親しみ]を感じさせるよう[心理職ならではの声かけ]をしている。

## 考察

結果からは、SCが教員のメンタルヘルスを意識して、教員の心の負担を軽くするようなコンサルテーションやコミュニケーションを行っていることが見て取れる。これは、「SCは教師自身のメンタルヘルスケアに役立つ」と自己評価しているという先行研究(伊藤, 1999)とも共通する。また、教員のメンタルヘルスのためにしているとSCが認識している活動である教員との個人面談を、学校側も業務として位置づけていることから、学校側もSCが教員のメンタルヘルスケアを担う存在であると考えている様子がうかがえる。

## 主要参考文献

伊藤美奈子(1999). スクールカウンセラーによる学校臨床実践評価ならびに学校要因との関連教育心理学研究, 47, 521-529

大谷尚(2019). 質的研究の考え方: 研究方法論からSCATによる分析まで 名古屋大学出版会

## 利益相反

本研究に関連し、開示すべき利益相反関連事項はありません。

## 謝辞

本研究にご協力いただきました協力者に心より感謝申し上げます。